

# 各国森林・環境概況

各国の森林・環境と文化

日時：平成22年9月4日（土） 10:00～15:00

講師：竹中 千里、田中 広樹（あいち海上の森大学コーディネーター）

## 概況



あいち海上の森大学コーディネーターの竹中千里氏と田中広樹氏を講師に向かえ、受講生の出身地での森林・環境の状況について、また日ごろの取り組みなどについて事例発表を実施した。

### ①The New Theory（タイ）

タイには、国王が提唱した農業理念である「The New Theory」に基づき、土地（農地）を30:30:30:10などに4分割し、30%を水田、30%を畑、そして30%をため池に使用し、残り10%を住居や家畜の飼育などに利用することで、水収支のとれた持続可能な農業を目指すシステムがある。

### ②中国の緑植政策について

中国の森林面積は1億5890万ha、国土の16.5%を占める。1981年から森林植林が、1990年からは都市緑化が始まり、森林が増加している唯一の国である。不法伐採を防止するため、木材の売買においては様々な段階で検査がなされている。

### ③ベトナムの森林について

ベトナムの森林面積は、1311万ha、国土の38%を占める。このうち自然林が1034万haである。ベトナム戦争後のドイモイ政策の市場経済化により森林がかなり減少したが、1991年に森林保護開発法が制定されてからは回復してきている。

④中国の里山と日本の里山における問題

政府の「生態移民政策」に基づき、内モンゴルでは「退耕還林」(土地を耕すことをやめてその土地を森林に戻すこと)、「退牧還草」(家畜を自然に放牧することを止めて、放牧地を草原に戻すこと)が進められている。この政策で移民村に移住させられる遊牧民がどのように生活していくかは大きな問題であり、本当に緑の大地を取り戻すことができるのかが今後の課題である。

⑤小学生との弥勒山歩き

⑥樹木医

⑦インタープリター活動報告

⑧豊田森林組合の森づくり団地について

⑨瀬戸市環境パートナーシップ事業者会議について

⑩お茶で日本を美しく～(株)伊藤園の取組事例

⑪コンクリート・土木開発における環境問題について

⑫フルハシ epo の木材利用

⑬「緑のカーテンづくり」を通じた環境プログラム